

## 環境マネジメントシステム推進体制

### 長谷工コーポレーション



※1 長谷工グループにおける環境対応方針・運用を行う。  
 ※2 環境マネジメントシステム

2019年4月1日現在

## 2018年度環境目標・目標値と結果及び2019年度計画

2018年度環境目標・目標値と結果及び2019年度計画は以下の通りです。

### 2018年度環境目標・目標値と結果

評価凡例 ○:目標達成 △:ほぼ目標達成 ×:目標未達成

部門	環境目標		目標値	東京地区		関西地区	
	結果	評価		結果	評価		
設計部門	環境配慮設計の提案	環境配慮チェックシートの活用	採用件数÷提案件数≥95%	98.0% (90件)	○	97.9% (27件)	○
	地球温暖化の防止	新CO <sub>2</sub> 排出量算定プログラムの活用	CO <sub>2</sub> 削減率10%以上 (2016年建築物省エネ基準・建物全体)	11.6% (90件)	○	11.3% (27件)	○
施工部門	建設廃棄物の削減 【混合廃棄物排出量 (2011年度比)を 2020年度までに25%削減】	建設廃棄物の削減	混合廃棄物7kg/m <sup>2</sup> 以下	5.4kg/m <sup>2</sup> (82件)	○	3.8kg/m <sup>2</sup> (44件)	○
		混合廃棄物のリサイクル化	リサイクル率75%	80.57% (82件)	○	83.09% (44件)	○
施工部門	地球温暖化の防止 【CO <sub>2</sub> 発生原単位 (13.8t-CO <sub>2</sub> /億円)を 2020年度までに7%削減】	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	発生原単位 12.9t-CO <sub>2</sub> /億円以下	10.18 t-CO <sub>2</sub> /億円 (82件)	○	10.69 t-CO <sub>2</sub> /億円 (44件)	○
	省エネルギーの推進 【2019年度まで2011年度 実績値以下とする】	電力使用量の削減	2011年度実績値以下	-3.9%	○	-17.6%	○
オフィス部門	資源有効利用	コピー用紙使用量の削減 《未達地点の周知徹底》	コピー・プリンター 2UP以上比率3.1%	3.8%	○	3.7%	○
			コピー・プリンター 両面比率30%	38.9%	○	32.4%	○
		文房具グリーン購入の推進 《未達地点の周知徹底》	購入率90%	94.9%	○	93.3%	○
技術推進部門 技術研究所	環境負荷低減に 資する研究開発	研究開発課題の年間着手件数	5件以上	80% (4件)	△		
		年間目標に対する平均進捗率	90%以上	96% (10課題)	○		

### 2019年度計画

部門	環境目標	目標値	
設計部門	環境配慮設計の提案	環境配慮チェックシートの活用	採用件数÷提案件数≥95%
	地球温暖化の防止	新CO <sub>2</sub> 排出量算定プログラムの活用	CO <sub>2</sub> 削減率10%以上 (2016年建築物省エネ基準・建物全体)
施工部門	建設廃棄物の削減 【混合廃棄物排出量 (2011年度比)を 2020年度までに25%削減】	建設廃棄物の削減	混合廃棄物7kg/m <sup>2</sup> 以下
		混合廃棄物のリサイクル化	リサイクル率75%
施工部門	地球温暖化の防止 【CO <sub>2</sub> 発生原単位 (13.8t-CO <sub>2</sub> /億円)を 2020年度までに7%削減】	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	発生原単位 12.9t-CO <sub>2</sub> /億円以下
	省エネルギーの推進 【2019年度まで2011年度 実績値以下とする】	電力使用量の削減	2011年度実績値以下
オフィス部門	資源有効利用	コピー用紙使用量の削減 《未達地点の周知徹底》	コピー・プリンター 2UP以上比率3.1%
			コピー・プリンター 両面比率30%
		文房具グリーン購入の推進 《未達地点の周知徹底》	購入率90%
技術推進部門 技術研究所	環境負荷低減に 資する研究開発	研究開発課題の年間着手件数	3件以上
		年間目標に対する平均進捗率	90%以上

### 環境マネジメントシステムの状況

長谷工コーポレーション・長谷工リフォームでは、ISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得し、環境活動の継続的な管理・改善を図っています。

#### 認証取得の経緯

長谷工コーポレーションでは、2001年7月に関西地区、10月に東京地区で認証を取得しました。2013年10月に環境マネジメントシステムを東西地区統合し運用しています。

長谷工リフォームでは、2014年3月に認証を取得しました。(東京・関西支社)。2018年4月に2015年版への移行及び、ISO9001品質マネジメントシステムと統合し運用しています。

#### 取り組みと継続的な改善

環境保全活動を進めるにあたり、環境方針を策定、各部門は環境方針を受け環境目標・目標値を定め推進しています。

#### 環境法規制の順守状況

2018年度は、工事に伴う環境に関する法違反はありません。

環境マネジメントシステムが規格要求事項を含め当社の取り決めに適合しているか、また適切に実施され維持されているかを内部監査及び外部審査によりチェックし、その結果を踏まえ、見直しを行い継続的な改善を図っています。

2018年度の外部審査受審日及び指摘件数は以下の通りです。

	登録日 更新日	外部審査受審日	外部審査 指摘件数
長谷工 コーポレーション	2001.10.1 2016.10.1	2018.7.24・25	なし
長谷工 リフォーム	2014.3.13 2018.4.19	2019.2.5~14	なし

## 施工 地球温暖化防止の取り組み

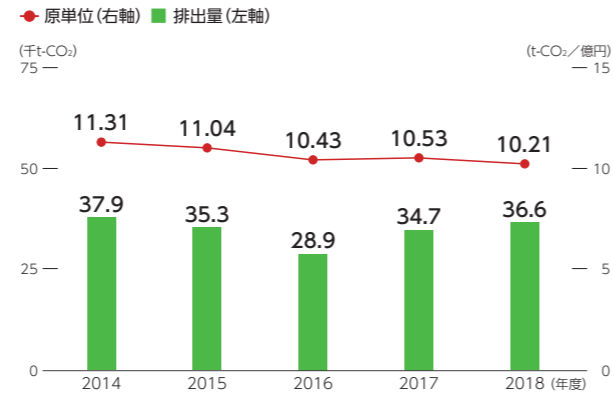
### 施工段階でのCO<sub>2</sub>削減

#### CO<sub>2</sub>排出量

施工段階におけるCO<sub>2</sub>排出量削減のため、各建設作業所でのアイドルストップ及び建設機械・車両の適正整備の励行等を行っています。

2018年度のCO<sub>2</sub>排出量原単位は、10.21t-CO<sub>2</sub>/億円でした。2017年度と比較して、0.32t-CO<sub>2</sub>/億円(3%)減少しました。

#### CO<sub>2</sub>排出量の推移



#### 産業廃棄物処分会社指定制度によるCO<sub>2</sub>の削減

建設作業所で発生する産業廃棄物は、品目ごと(木くず、廃プラスチック類、混合廃棄物等)に分別し、指定会社で処分を行っています。その中で混合廃棄物は、かなり削減されたものの現場の着工から竣工までの長い期間にわたって発生しています。

東京地区は指定6社12工場、関西地区は指定6社8工場の中から現場に近い処分会社を選定し、廃棄物の運搬距離を短縮することにより、収集運搬効率が向上、CO<sub>2</sub>の削減につなげています。

#### 建設発生土の場内有効利用等によるCO<sub>2</sub>の削減

建設作業所で排出するCO<sub>2</sub>のうち、約90%近くが軽油利用に起因するものであることから、軽油使用量の低減がCO<sub>2</sub>削減に大きく影響します。

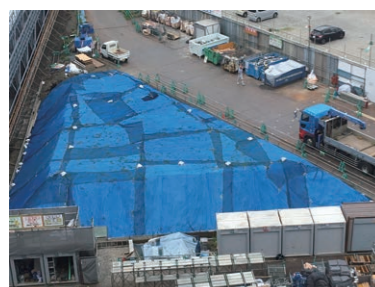
近年は土砂運搬による遠距離化により、土砂運搬時におけるCO<sub>2</sub>の発生も増加する傾向にあります。

建設作業所では、掘削工事から発生する土砂を場内埋戻し土としてできるだけ利用することにより、場外搬出ダンプ台数を低減し、CO<sub>2</sub>の削減を図っています。

また、場外に搬出された建設残土の大半は埋戻し処分されており、埋戻しによる森林破壊の原因にもなります。残土の搬出量を減らすことで、森林保護にもつながります。

#### 「PREMIST湘南辻堂 AQUA Face」新築工事(東京地区)

根伐り工事より発生した掘削土砂30,000m<sup>3</sup>のうち約4,000m<sup>3</sup>を場内にストック。仮置き中もシート養生による粉じんの飛散防止対策を確実に実施し、工事進捗に応じ順次埋戻しに利用しました。土砂の場内有効利用により搬出ダンプ数を少なくでき、約53.2tのCO<sub>2</sub>削減を達成しました。



飛散防止対策の状況

#### 「シエリア須磨鷹取スマイルシティ」新築工事(関西地区)

マンション建設工事の根伐り工事に伴い、工程、作業スペース等の調整を実施し、掘削土砂を場内に一部仮置き。基礎躯体周りの埋戻しに転用を行い、作業におけるCO<sub>2</sub>の発生量を削減しました。仮置きや埋戻しに転用した土砂量は約1,000m<sup>3</sup>。該当量の土砂搬出、埋戻し土の搬入作業の削減により、10tダンプにして約330台の削減、CO<sub>2</sub>排出量で約12.4tの削減を達成しました。



場内仮置き土砂の基礎躯体周りの埋戻し転用状況

#### 大規模修繕工事でのCO<sub>2</sub>排出量の把握

長谷工リフォームの大規模修繕現場でのCO<sub>2</sub>排出量は表の通り、受注金額5千万円以上の完工した113現場(東京63現場・関西50現場)を計測し、総CO<sub>2</sub>排出量は、145.98tと前期比12%の増加となりました。

一方、原単位当りでは、5千万円以下の物件が増え、該当物件数が増加し、超高層マンション及び移動昇降式足場等、電気使用量、軽油使用量等が2017年に比べ若干増加したことによる影響もあり、原単位も0.83t-CO<sub>2</sub>と前期比11%の

増加となりました。

ISO14001の導入から5年が経ち、また2015年度版への移行に併せ、2017年度に九州・名古屋支店も組織に加入しました。改めて両支店への教育、指導を推進し、協力会社を含め、産業廃棄物分別に対する現場の管理意識、環境活動・省エネ活動への意識向上に力を入れ、更なるCO<sub>2</sub>削減に取り組めます。

#### CO<sub>2</sub>排出量把握(請負金額は当該現場分の合計)

全社	2014年度(123現場)		2015年度(116現場)		2016年度(124現場)		2017年度(100現場)		2018年度(113現場)	
	総量	CO <sub>2</sub> 排出量	総量	CO <sub>2</sub> 排出量	総量	CO <sub>2</sub> 排出量	総量	CO <sub>2</sub> 排出量	総量	CO <sub>2</sub> 排出量
電力使用量	165,116kWh	57.15t-CO <sub>2</sub>	273,834kWh	91.89t-CO <sub>2</sub>	371,488kWh	128.38t-CO <sub>2</sub>	227,736kWh	84.49t-CO <sub>2</sub>	223,977kWh	118.29t-CO <sub>2</sub>
軽油使用量	22,890ℓ	68.75t-CO <sub>2</sub>	19,121ℓ	50.56t-CO <sub>2</sub>	47,007ℓ	124.3t-CO <sub>2</sub>	17,246ℓ	45.6t-CO <sub>2</sub>	18,295ℓ	27.69t-CO <sub>2</sub>
廃棄物排出	2,354t		2,759t		1,889t		2,020t		1,378t	
総CO <sub>2</sub>		125.90t-CO <sub>2</sub>		142.45t-CO <sub>2</sub>		252.68t-CO <sub>2</sub>		130.09t-CO <sub>2</sub>		145.98t-CO <sub>2</sub>
請負金額	225.47億円		195.0億円		191.16億円		171.28億円		176.5億円	
原単位	0.55t-CO <sub>2</sub> /億円		0.73t-CO <sub>2</sub> /億円		1.32t-CO <sub>2</sub> /億円		0.75t-CO <sub>2</sub> /億円		0.83t-CO <sub>2</sub> /億円	